

JA いわみざわ地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

(1) 地域の作物作付の現状

当地域の耕地面積は18,230haで、うち水田面積は15,130haと耕地面積の83%を占めている。地域のほぼ中央を縦断する北海道縦貫自動車道以西は坦々とした平地が広がり、豊富な水資源を利用した稲作の主産地を形成し、自動車道以東は丘陵地から山林地帯へと広がり、水稲及び畑作・果樹の複合経営を展開している。平成28年度の転作面積8,805ha（転作率58%）のうち麦・大豆・飼料作物が78%を占めている一方、花卉・野菜は12%にとどまり、その他は雑穀・地力作物等となっている。

(2) 地域が抱える課題

農地の集積は着々と進み、人・農地プランで地域の合意形成により示された担い手は明確になっている。一方、高齢化・後継者不足により、農家戸数は年々減少の一途をたどっており、特に10ha未満の農家戸数の減少が著しい。大型化した経営体については、労働不足が顕著になることや野菜については作付中止が懸念され、水田機能維持と併せた輪作体系、作期競合回避技術、野菜産地の生産体制づくりが喫緊の課題となっている。また、異常気象による冷災害の克服、排水不良による湿害対策等地域の実情に合わせて生産基盤である農地の整備が求められている。

2 作物ごとの取組方針

地域内で約15,130haの水田を擁する当地域が将来にわたって米主産地として生き残るためには、農地中間管理事業を活用し農地集積により大規模化を進め、水張り面積を確保すると共に用途別生産・販売の強化に取り組み、売れる米作りをより強力で推進する必要がある。一方、産地交付金を有効に活用してJAブランドでもある玉葱を基幹作物とし、国内自給率向上に資する麦・大豆の品質向上を図ると共に白菜・南瓜・キャベツ・長葱・人参・花卉・胡瓜・メロン・いちごの生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

米の消費減少が進み、ますます産地間競争が激化する中で水張り面積を確保するため、消費者・実需者を買ってもらえる米作りと販売力強化が重要になっているが、消費者のニーズは多様であり、ニーズに合った米を均一な一定のロットで確保する。また、一定の栽培基準を設けたこだわり米についても作付けを拡大し、クリーン農業のイメージ強化と共に差別化を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米・WCS用稲

主食用米の需要減少が見込まれる中、需要の拡大が見込まれる飼料用米の生産を進める。収量・安定性に乏しい飼料用米等は、直播などコスト削減を図りつつ、国からの産地交付金を最大限活用して平成30年度に一定程度の面積を確保する。

イ 加工用米・備蓄用米

産地交付金を活用しつつ、焼酎など低価格帯の需要拡大を図り、水張り確保のため5年後に一定程度の面積を確保する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

農地集積が進んだ現状に於いても主要な転作作物としての位置づけは変わらず、今後もこれら作物の品質の一層の向上を図る。麦については、連作障害と春小麦の生産性が課題となるため、米を含めた輪作体系の確立と技術が確立されつつある春小麦の初冬播きの拡大により、生産性の安定化に努める。

(4) そば、なたね

麦・大豆の作付けが不向きな道央道以東の区域では、そばが転作作物の重要な位置づけとなっている。暗渠排水等土層改良を進めながら、作付面積を維持する。また、なたねについては、輪作ローテーションの一環として作付面積を確保する。

(5) 野菜

米と共にJAいわみぎわの基幹作物である玉葱は、品質と収量の向上を目指し、輪作体系による地力の改善・透排水性改善によりブランドの再構築を図る。また、JAの振興作物である白菜・南瓜・キャベツ・長葱・人参・花卉・胡瓜・メロン・いちごは、地域性・経営面積・労働力等各品目の利点を活かした作付推進で産地化に努める。

(6) 不作付地の解消

今後も高齢化・後継者不足で離農が続くとすれば、条件不利地から不作付地の発生が懸念される。これらの農地は農地中間管理機構とも連携し、必要に応じて基盤整備事業の整備をした上で地域に応じた作付を奨励し、解消を図る。

(7) 耕畜連携

ア わら利用助成

水稻作付面積を確保しつつ、耕種農家と畜産農家における地域内外連携を推進するため、飼料用米（わら専用稲含む）作付及びわら利用による耕畜連携の取組を支援する。

イ 水田放牧助成

耕種農家と畜産農家における地域内連携推進するため、飼料作物作付及び水田放牧による耕畜連携の取組を支援する。

エ 資源循環助成

耕種農家と畜産農家における地域内循環を推進するため、飼料作物等の作付及び堆肥散布による耕畜連携の取組を支援する。

(8) 二毛作

輪作体系に組み入れ、連作障害を回避するとともに、各作物の品質及び収量向上を図り、生産性を高め、地域の特性に応じた作付で産地形成を確立する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成28年度の 作付面積 (ha)	平成29年度の 作付予定面積 (ha)	平成30年度の 目標作付面積 (ha)
主食用米	6,324.9	6,306.3	6,400.0
飼料用米	170.8	154.0	160.0
米粉用米	0.1	0.1	0.1
WCS用稲	75.1	100.0	100.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	4,479.8	4,480.0	4,500.0
大豆	1,763.3	1,765.0	1,665.0
飼料作物	378.3	400.0	410.0
そば	162.0	162.0	170.0
なたね	105.0	105.0	105.0
てん菜	28.0	27.0	28.0
重点作物			
小豆	56.4	56.0	57.0
重点基幹作物			
玉葱	576.9	577.0	600.0
地域振興作物			
野菜			
・白菜	76.6	76.0	80.0
・南瓜	130.3	129.0	140.0
・キャベツ	28.8	29.0	30.0
・長葱	32.9	32.0	33.0
・人参	46.8	46.0	50.0
・花卉	44.3	42.0	45.0
・胡瓜	5.3	6.0	6.0
・メロン	9.8	10.0	10.0
・いちご	2.2	3.0	3.0
基幹作物			
その他野菜	92.7	90.0	95.0
その他			
その他作物	539.7	534.6	442.9
計	15,130.0	15,130.0	15,130.0

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

① 産地戦略枠と従来枠について

取組 番号	対象作物	取組	分 類	指 標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	麦・大豆	空知型輪作体系確立加算(前作：水稲)	ウ	実施面積	635.93ha	636ha
2	小麦	春小麦の初冬播き栽培加算	ウ	実施面積	202.49ha	300ha
3	小麦	大豆間作麦輪作加算	ウ	実施面積	501.60ha	502ha
4	玉葱	重点基幹作物助成	ウ	実施面積	576.78ha	577ha
5	玉葱 後作緑肥	土地地力増進推進助成 (玉葱後作緑肥：二毛作)	ア	実施面積	101.06ha	102ha
6	飼料用 とうもろこし	土地地力増進推進助成 (飼料作物)	ウ	実施面積	98.64ha	99ha
7	小麦後作 白菜・キャベツ	地域振興作物助成(小麦後作白菜・キャベツ)	ア	実施面積	89.00ha	89ha
8	小麦	単収実績加算 (秋小麦)	ア	実施面積	3,141.51ha	3,150ha
11	小麦	単収実績加算 (春小麦)	ア	実施面積	448.76ha	450ha
14	大豆	単収実績加算 (大豆)	ア	実施面積	1,195.80ha	1,200ha
17・18 19	緑肥・ひまわり・デントコーン	土地地力増進作物推進助成(地力増進作物・)	ア	実施面積	238.09ha	399ha
20	緑肥	圃場整備促進加算	ア	実施面積	10.03ha	11ha
21	飼料作物	飼料作物団地加算	イ	実施面積	227.68ha	225ha
22	飼料用米	わら利用助成 (耕畜連携)	ア	実施面積	46ha	47ha
23	飼料作物	水田放牧助成 (耕畜連携)	イ	実施面積	1ha	1ha
24	WCS用稲	資源循環助成 (耕畜連携)	イ	実施面積	100ha	100ha
25	そば	地域重点作物推進加算 (二毛作そば)	ア	実施面積	59ha	59ha

② 技術導入促進交付金について

別紙のとおり